

## 不登校生徒に対する支援と校内体制の強化について

### 不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、学力不振や友人関係の悩みから学校生活に不安を抱えている。

### 具体的な取組

#### 1 生徒が安心して過ごせる場の確保

不登校生徒がスムーズに教室に入ることができるよう、段階的に支援を続けて、学校内外に安心して過ごせられる場所の確保に努めている。校内の相談室や保健室、校外の学習支援教室への通級の調整や、正門までの登校など、生徒の状況に合った方法で登校の機会をつくり、学校から気持ちが離れないよう工夫した取組を実施している。

#### 2 ハートフル・ウィークの実施

全校生徒が、スクールカウンセラー等を含む全教職員の中から相談相手を指名し、生徒自身の趣味などの話題等で会話を行う時間を設けている。人間関係を深め、より良い学校生活を築く機会の一つになることを目的として実施している。教職員にとっては、生徒理解につながる機会になるとともに、生徒自身にとっても充実した学校生活を送るきっかけになっている。



#### 3 不登校生徒等に対する校内指導体制の強化

毎週定期的に、管理職、各学年生活指導担当、生活指導主任、スクールカウンセラー、養護教諭を交えて、不登校生徒に関する情報共有を行い、生徒理解に努めると共に、校内指導体制や指導方針の確認を行っている。

#### 4 外部機関との連携強化と加配教員による校内研修の実施

個々の生徒の状況に応じて、子ども家庭支援センターやSSW、警察署、児童相談所等と連携し、生徒自身や保護者の支援にも力を入れている。また、加配教員による連絡会で得られた有用な情報を還元する校内研修を実施している。

### 成果

以上のような取り組みを通して、不登校生徒の中で、令和4年度欠席率が50%近くあった生徒が、30%台に減少するなど、改善が見られた。また、昨年度小学校から継続して不登校であった1名の生徒は、本校に入学して通常に登校できるまでに改善した。

### 課題

今年度の不登校生徒の9割は、根本的な不登校原因の改善まで至らず、長期的な支援が、今後必要である。

## 不登校生徒に対する支援について

### 不登校生徒の状況

当該生徒は、教員や生徒とうまくコミュニケーションが取れず、集団生活に馴染めずにいる。さらに、集団に対して恐怖感があるため、安定した登校ができていない。不登校生徒を減らすために、まずは校内組織体制づくりを行い、改めて不登校の現状を集約・整理し、支援の方向性を共通理解している。

### 具体的な取組

#### ○生活指導部会での情報共有

週に1回の生活指導部会内で、支援会議を実施している。さらに、スクールカウンセラーや外部機関の方にも参加を促し、専門的な視点からも助言を受けながら対応方法を検討している。支援内容については、必ず校内の教員に周知し、統一した指導体制を整えている。

#### ○欠席者の集約

職員室の出欠席表の黒板を活用してどの教員も全校の欠席状況や各学年の欠席生徒の情報を把握できるようにした。



#### ○担任への支援

不登校対応加配教員が、集約した欠席生徒の状況をもとに、担任に月に1回を目安に家庭訪問を予定し、実施するよう声かけを行った。また、担任がどうしても家庭訪問できない場合は、他の教員が行けるように校内での調整や、家庭との調整を図った。

#### ○不登校生徒の居場所づくり・絆づくり

不登校生徒が安心して登校し、過ごすことができるように、校舎内に別室を設置し、教室に入れない生徒の居場所を確保した。自習させる、読書に取り組みさせる、課題を与える、オンライン授業への参加など、生徒の実態に合わせた支援を行っている。

### 成果

不登校対応加配教員を中心に、校内の不登校対応について改めて共通理解を図り、組織体制づくりを行うことができた。また、小規模校の特性を生かし、学級担任からの積極的なコミュニケーションと相談しやすい雰囲気づくりを行った。

### 課題

校内別室を進めるにあたり、教室環境や人員配置など運営上の課題が多くある。支援会議で検討を重ねて、改善していく。